令和８年４月２７日

信濃町長　鈴木文雄　様

信濃町観光審議会
会長　佐藤　正和

信濃町観光ビジョンの策定について（答申）

令和７年 11 月 28 日付、７信産観第 144 号により諮問のありました「信濃町観光ビジョン」の策定について、慎重に審議を重ねてまいりました。その結果を下記のとおり答申いたします。

記

1. 背景と目的

信濃町は野尻湖や黒姫山、斑尾山といった国立公園の豊かな自然環境を基盤に、一茶やナウマンゾウに代表される「文化」、トウモロコシ等の高品質な「食」が重なり合う地域です。

しかし、観光客の季節偏在や滞在時間の短さ、知名度の不足といった課題は依然として深刻です。本ビジョンは、これらの課題を克服し、「自然・食・文化」を循環させることで、来訪者・住民・就業者のすべてが豊かさを実感できる地域づくりを目指します。

2. 現状評価と審議経過の総括

Ⅰ．前回（平成 30 年）答申の検証

・概況： 利用者数は 113 万人（R6）まで回復しましたが、取り組みが「点」に留まっており、収益化や周遊性の向上に課題を残しています。

・２次交通の危機： 既存路線の廃止が進む中、令和８年度以降を見据え、ライドシェアや予約制タクシーなど、地域の足を支える新たな仕組みを検討していく必要があります。

・推進体制： 行政主導から「民間主導・多業種連携」への転換が不可欠であり、現場レベルの実行組織の構築が求められています。

Ⅱ．審議の視点

これまでの「分散型」の施策を反省し、「優先項目への重点化」を基本方針としました。専門家の知見を交え、強みである自然環境を核とした「線」の周遊プラン構築と、データに基づく「質」の向上を重視した議論を展開しました。

３．観光ビジョン（目指す将来像）

「自然・食・文化」を求めに何度も訪れ住みたくなる　魅力的な信濃町

来訪者が信濃町の本質的な価値を能動的に「求め」、リピーターとなり、やがては住みたくなるような、関係人口・定住人口の増加を見据えた将来像を掲げました。

4．基本方針

「ネイチャーポジティブ」な視点で町の新たな観光の価値と魅力の向上を図る

本ビジョンの最大の特徴は、「ネイチャーポジティブ（自然再興）」を全施策の土台となる最上位の基本方針に据えた点にあります。

町民憲章以来、守り続けてきた自然環境を「制限」ではなく「最大の観光価値」と捉え直し、自然を回復・再生させることが経済を活性化させるという新たな地域の魅力向上を目指します。

5．重点施策（5つの柱）

ビジョンを実現するための具体的な指針として、以下の5本柱を策定しました。

1．**観光商品の造成と体制強化：** 点在する観光資源（自然・食・文化）を組み合わせ、「滞在型・高付加価値型」の観光商品としてパッケージ化。事業者間の連携を強め、通年での誘客と消費額の増加を図ります。

2．**統一感のあるPR推進：** 知名度向上のため、来訪者分析に基づいた「町の統一イメージ」の具体化を進める。令和9年度の信州DCを好機と捉え、効果的な情報発信を行います。

3．**信濃町スタイルで進めるインバウンド：** 数の追求ではなく、自然や暮らしの文化を大切にする「信濃町らしさ」を軸にした訪日客対策を推進。学習会などを通じ、既存の常連客も大切にできる受入体制を整えます。

4．**広域観光の推進：** 周辺自治体や関係団体との連携を深め、エリア全体での魅力向上と市場拡大を図ります。宿泊税財源の活用も視野に入れ、広域での呼び込みを具体化します。

5．**二次交通の整備：**観光客の利便性と、車を持たない住民の足を両立させる「持続可能な交通網」を模索。二次交通の課題解決に向け、先進地事例の研究や効率的な仕組みづくりを検討します。

6．町長への提言：計画を「動くもの」にするために

本審議会は、本ビジョンの着実な推進に向けて、町長に対し以下の3点を求めます。

・組織の横断的な連携： 観光部門のみならず、各課が「横串」で連携し、町全体でネイチャーポジティブを具現化すること。

・官民連携プロジェクトの推進： 令和8年度より、テーマごとに現場レベルのチームを組織し、民間活力と行政支援を融合させること。

・定点観測と評価： 審議会を答申で終わらせず、今後の進捗をモニタリングし、適宜評価・軌道修正を行う「動く計画」として運用すること。

町におかれましては、この答申を真摯に受け止め、速やかに具現化へ向けた予算措置および組織体制の整備に邁進されるよう、要望いたします。